

(材料と方法) 材料にはGNセラミックブロック(GC社製)のLサイズを用いた。

試料作製は、セラミックブロックを、ダイヤモンドディスクで切断し、表面を耐水研磨紙1,500番まで研磨して、最終的に厚さ1.0×幅8.0×長さ18.0mmの大きさの試料を作製した。耐水研磨紙#1,500で研磨した試料を未焼成とした。それを焼成したものをフレーム焼成とした。

さらにフレーム焼成した試料にさらにグレーザーを塗布し、メーカー指示である係留時間1分のグレーズ焼成した試料と、係留時間3分、5分および10分を加えた6条件の試料を各8枚作製した。

実験方法は、強度試験として支点間距離13.5mmとした三転曲げ試験をクロスヘッドスピード1mm/分で行った。さらに、表面粗さ測定機(サーフコム590)を用いて試料の表面粗さを測定した。

(結果および考察) 強度は係留時間3分が1分よりも有意に高い値を示した。また3, 5, 10分の間には有意差は認められなかった。

表面粗さは、係留時間1分が最も高い値を示し、時間を延長するにつれてRaは小さくなった。なお、係留時間5, 10分の間には有意差は認められなかった。

以上のことから、メーカー指示のグレージング焼成で係留時間1分では強度も弱く、さらに表面粗さも粗いことが確認できた。したがって、臨床においては係留時間は3分から5分がよいものと思われた。今後は適合試験ならびにプラーク付着試験等を検討していく所存である。

## 5) 平成21年度臨床実習における学習者による問題の抽出とその対応

○清野 晃孝, 鎌田 政善<sup>1</sup>, 高橋 和裕<sup>2</sup>  
横瀬 敏志<sup>3</sup>, 齋藤 高弘<sup>4</sup>  
(奥羽大・歯・診療科学, 歯科補綴<sup>1</sup>,  
放射線診断<sup>2</sup>, 歯科保存<sup>3</sup>)

(目的) 平成21年度臨床実習における終了期である3月に選択実習を導入・実施した。学習者である臨床実習生に自分の欠点や長所を自覚させ、自助努力の目標設定の対策として、臨床各科目は教育可能な受け入れ人数と行動目標および実習内容を提示し、さらに基礎科目履修ができるよ

うに対応した。評価は、ポートフォリオの記載とした。

本選択実習は、平成22年度臨床実習においても予定しているため、前年度の選択実習を評価し、各科目の教育担当者へのフィードバックを目的としてその概要と回収できたポートフォリオによる評価を報告した。

(方法) 選択実習の概要として、対象は平成21年度第5学年学生81名であり、期間は平成22年3月1日から平成22年3月19日とした。時間帯は13:20から17時までであり、午後のみを14回実施した。手順は各科目から教育可能な受け入れ人数、行動目標および実習内容を学生に印刷物で提示し、学習者に選択希望届を提出してもらった。学習者の希望順位を考慮して臨床科目を決定し、特に基礎科目出向を望んだ学習者へは調整を行った。ポートフォリオ用紙は上段に選択科目をチェックボックスで明示し、1日に1枚を記載させ、学習者は当日の実習内容を記載し、指導者がコメントを記入して、翌日への意欲をつなげる努力をした。下段には、学習者が本日の習得・学習した内容を具体的に記載し、1日を振り返り最下段の自己評価を記載した。「充分できた、やや出来た、普通、不満足、明日は頑張ろう」の5段階の評定尺度評価とした。

(結果と考察) 回収数は81名の内、54名分で回収率は66.7%であった。臨床科目における評価は、充分できたが40.2%、やや出来たが26.6%、一方、不満足は0.7%、明日は頑張ろうは1%を示した。本選択実習は、学習者の意志が組み込まれていた結果、満足度は高いものと考えた。回収した54名の中で、基礎科目を希望した37名の学習者はさらに満足度は高いものと思われたが、不満足を示した1%の学習者へは、期待を裏切る実習内容であった可能性も示唆され、また充分と答えた者が過半数に満たなかったことも反省点と考える必要があった。

選択実習に対する学習者の満足度は高く、基礎科目を振り返り、欠点の克服、長所の向上に寄与したことが示唆された。僅かではあるが、学習者の希望とかけ離れた内容が実施されたことが示された。以上の点を踏まえ、来年3月に予定されている本年度の選択実習をさらに改善することが必要と考えた。